

令和7年度 国立国語研究所 運営会議（第2回） 議事概要

日 時：令和7年6月20日（金） 15:00～17:00

場 所：Web 会議

出席者：呉人委員、小泉委員、小林委員、近藤委員、投野委員、皆川委員、
浅原委員、五十嵐委員、石黒委員、小木曾委員、小磯委員、高田委員、前川所長

議 事：議事に先立ち、事務局より、「国立国語研究所運営会議規程」第5条第1項及び「国立国語研究所における研究教育職員候補者（外部公募）選考内規」第8条による定足数の確認が行われた。

<運営会議副議長選出>

（1）運営会議副議長の選出について

議長から、運営会議副議長の選出について説明があり、近藤委員が選出された。

<審議事項>

（1）研究系助教（テニュアトラック）の選考について

人事委員会委員長から、資料1に基づき、人事委員会における採用候補者の検討経過及び審議結果について説明があり、「国立国語研究所における研究教育職員候補者選考（外部公募）内規に関する申合せ」に基づきオンライン投票が行われ、投票の結果、採用候補者1名、補欠候補者1名が決定した。

また、人事委員会委員長から、採用時期は令和7年10月1日を想定しており、採用候補者の内定受諾の猶予期間は7月31日まで、採用候補者が辞退を申し出た場合の補欠候補者の内定受諾の猶予期間は8月29日までとする旨の説明があった。

<報告事項>

（1）国立国語研究所宮地裕日本語研究基金について

宮地裕日本語研究基金運営委員会委員長から、資料2に基づき、第3回学術奨励賞、総研大日本語言語科学コース特別奨学金の審査を進めており、7月3日に予定している宮地裕日本語研究基金運営委員会で決定されること、学術奨励賞授賞式を計画していることについて報告があった。

（2）第5期に向けたフィージビリティスタディーについて

所長から、資料3に基づき、第5期中期計画（令和10（2028）年4月～令和16（2034）年3月）における研究活動につながる準備的・萌芽的研究を所内公募しており、後日、運営会議委員に採否の審査をお願いする旨依頼があった。

（3）共同利用型共同研究の採択報告について

所長から、資料4に基づき、2月の運営会議以降に、共同利用型共同研究（B）3件、共同利用型共同研究（C）1件が採択された旨報告があった。

(4) 令和 8 年度概算要求等について

所長から、資料 5 に基づき、「令和 6 年度概算要求で採択された「DH によるデータ集積を前提とした言語研究を先導する E3P-Linguistics の確立」の拡充要求、「ライフライン再生（防災設備改修）」として経年劣化が見受けられる自動火災報知設備・非常放送設備の機器更新を要求している旨報告があった。また、次世代言語科学研究センター長から各委員に対し、周囲にセンターに興味を持っている方がいれば声をかけていただき、NINJAL サロン等で発表していただくなど、交流を深めていきたいとの依頼があった。

委員から、概算要求に見られるような国語研の新たな取組みについて、例えば、日本語学会や、高校生向けのワークショップを実施すれば、国語研がこれらの取組みを通し変遷していることをアピールできることに加え、興味を持っている者への普及になるのではないかと提案があった。

また、委員から、資料 5 の 7 頁目に列挙されている協同機関に日本語教育学会が挙げられていないが、協定を締結したオフィシャルな連携に限って記載しているのかとの質問があり、所長から、これまで共同研究等を行った実績のある組織をピックアップしているため記載されていないが、今後、研究が進展し、社会への普及還元を考える段階になったときに協力をお願いすることになるとの説明があった。

(5) 国立国語研究所の活動について

所長から、資料 6 に基づき、研究所の運営・体制、イベントの開催状況、広報・社会貢献活動等、国立国語研究所の活動状況について報告があった。

(6) その他

・次回開催日について

議長から、第 3 回を令和 7 年 10 月 31 日(金)15:00～17:00、第 4 回を令和 8 年 2 月 13 日(金)15:00～17:00 に予定している旨の説明と、次回は原則、対面形式で開催したいとの提案があり、後日、出席の可否を照会することになった。

議事終了後、小磯教授から、基幹研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」について研究紹介があり、意見交換が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・国語研のコーパスは一つできると、一つの新しい研究分野が増えていく印象である。これまでの動画が付随したコーパスというのは使いにくいものが多かった。非常に有用な研究であると思う。
- ・ASD に関する研究は実施が難しい分野である。是非進めていただきたい。
- ・異分野融合がうまくいっている。行動にラベリングすることで、行動指標のようなものも、言語指標と一緒にモデリングできる可能性があるのではないか。
- ・子ども達が丁寧体を使い始めるのが、お店の場面等、非日常を持ち込むあたりが、成人と異なる点であるので、研究すると面白いと思う。また、動画があると色々な事が見えてくると思う。
- ・諸分野と幅広く共同研究していく枠組みができれば良い。また、これまで国語研が作成してきた資料をデジタルで再生することも意義があると思う。

以上